

不登校や中退の子供たちを受け入れるフリースクールの一つである、越谷市の「りんごの木」(増田良枝事務長)で、本格的な映画製作が始まった。スクール以外の人たちも巻き込んで子供たちの世界を広げ、学校復帰を促すねらいだ。映像機器などに触れる初步的段階から始め、来年二月の「公開」を目指す。

(横江初太郎)



カメラを手に教室を試し撮りする小池宏美さん―越谷市の「りんごの木」

越谷のフリースクール「りんごの木」

子供たち主導 本格映画製作

「りんごの木」は平成二年、不登校の児童・生徒の「居場所」として、地元有志が東武伊勢崎線せんげん台駅西口近くに開いた。その後、活動が広がって、現在はNPO法人(特定非営利活動法人)の「越谷らるご」(竹村洋介理事長)が運営。越谷らるごは、教育に関する講演会や相談会も開催している。

元学習塾だった教室には、マンガの本やテレビゲーム、トランプといった遊び道具があるほか、ソファ

やテーブルが置いてあり、自宅にいたようなくつろげる雰囲気になっている。週五日から月三回のコースまであり、通ってくるのは現在、越谷市とその周辺に住む小、中、高校生ら二十一人。「それぞれが本を読んで静かに過ごす時間もあれば、子供たちでのおしゃべりが続くにぎやかな時間もある」と、スタッフの一人、鎌倉賢哉さん(三〇)は話

「りんごの木」では、いまはスタッフを離れた加納想子さん(三六)が中心となって上演時間十二分ほどのショートフィルムを製作したことがあり、昨年東京都内で開かれた「フリースクールチャーターフェスティバル」(NPO法人フリースクール全国ネットワーク主催)で発表した。

このときは、スタッフがラブロマンスに仕立てるの作った映画だったが、子供か、いまはまだ白紙だ。子供たちが話し合っ

フリースクール 地域の住民らがつくる学校外の「学びの場」。おもに不登校や中退の子供たちを受け入れ、フリースペースなどとも呼ばれる。県が平成15年度に初めて行った実態調査では、フリースクールと呼ばれるものが9施設、フリースペースや親の会なども含めると30施設以上あり、このうち、4施設が、NPO法人となっている。これらの施設に通う日数を出席日数として認める公立の小中学校もあるという。

世界広げるきっかけに

来年2月上映へ

子供たちが話し合っ、題材を決める。自由参加で、現在約十人の子供が映画作りに取り組んでいる。

いまは、一流の映像機材などを備えた川口市のスキップシティ(川口市)を見学したり、フィルムフェスティバルをのぞいたり段階。映画づくりは十月末までワークショップを重ね、十一月から実際の製作に取りかかる。上映会(場所は未定)は来年二月の予定だ。

「りんごの木」に通っている栗橋町の小池宏美さん(二八)は「カメラの扱い方もよくわからないけど、おもしろそう。音楽を取り込んで楽しいものになりたい」と話す。増田事務長も「スクール外の人も参加してほしい。いろいろな人たちの交流を通じ、みんなが一緒に生きていくという気持ちになったら」と映画製作に期待している。